

6. 主な報道発表 (2022年8月1日以降)



◀こちらから当社ホームページをご覧ください

詳細な内容は当社ホームページ <http://www.japc.co.jp> をご覧ください。

-	主な報道発表はございません
---	---------------

げんでんふれあいギャラリー展示のお知らせ



◀こちらから げんでんふれあいギャラリーのホームページをご覧ください

- ◆第19回「五人の会」写真展 8月30日(火)～9月4日(日) (最終日は15:00まで)
「五人の会」(代表: 吉田 俊雄 様)の5名の皆様による写真展です。若狭地方の風景や伝統行事、花などを撮影した作品を40点展示中です。
- ◆敦賀市小中学校児童生徒理科作品展 9月13日(火)～9月18日(日) (最終日は15:30まで)
夏休みに敦賀市内の児童・生徒が、創意工夫を凝らし取り組んだ理科研究・工作の中から、各校の優秀作品約50点を展示予定です。主催: 敦賀市小中学校教育研究会理科部会
- ◆フォトクラブ写真展 9月20日(火)～9月25日(日) (最終日は16:00まで)
フォトクラブ(代表: 笠原 由和 様)の9名の皆様による写真展です。風景、人物、花などを被写体に、個性が発揮された作品30点を展示予定です。
- ◆「織・茜」第四回の楽しい手織り作品展 9月27日(火)～10月2日(日)
2015年に発足した「織・茜」手織りサークルの17名の皆様による、手織り小物作品展です。タペストリー、絵織り、バックなどの作品を100点展示予定です。



お問合せ

げんでんふれあいギャラリー 敦賀市本町2丁目9-16
 フリーダイヤル 0120-749-201 FAX 0770-25-5603
 開館時間 10:00～16:30※ 休館日 12月29日～1月3日
 ※新型コロナウイルス感染予防対策のため、開館時間を短縮しています。
<http://www.japc.co.jp/tsuruga/fureai/event/fureai.html>



◀感染防止徹底宣言ステッカーを取得しています

ご存じですか? クリアランス Vol.6

今回は、東海発電所で発生したクリアランス金属の再利用実績についてご紹介します。

クリアランス制度対象物(金属)は、溶解等を行って加工し、当社、電力会社、原子力関連施設等で活用しています。日本では、クリアランス制度が社会に定着するまでの間は、原子力関連施設などでの再利用に限定し、市場に流通することがないように運用しています。

【再利用総数】主に東海発電所、敦賀発電所、原子力関連施設等において活用しています。

遮へい体	敷きブロック	車両進入防止ブロック	ベンチ	テーブル	配管サポート用コンクリート基礎の埋込金具	クレーン荷重試験用ウェイト
79体	600個	329個	105脚	10台	223個	89個



放射線遮へい体



敷きブロック



車両進入防止ブロック



ベンチ(脚部がクリアランス金属)

クリアランス制度とは?

原子力発電所の解体などで発生する廃棄物のうち、放射性物質の濃度が極めて低く人体への影響が無視できるレベルで、国による測定結果の確認を得たものはリサイクル可能な一般の廃棄物として取り扱えるようにする制度。人体への影響が無視できるレベルは、1年間に受ける放射線の量が0.01ミリシーベルト(自然から受ける放射線の1/100以下)。

本資料の作成元・お問合せ先: 日本原子力発電株式会社(略称: げんでん) 敦賀事業本部 立地・地域共生部

TEL: 0770-25-5713 住所: 敦賀市本町2丁目9-16

げんでん いんふおめーしょん 9月号

1. 敦賀発電所の状況 (2022年9月2日現在)

プラント(炉型)	状況
1号機(沸騰水型)	<p>●2017年5月15日より</p> <p>○2015年4月 営業運転終了廃止措置工事实施中(廃止措置期間: 24年)</p> <p>廃止措置とは、運転を終了した原子力発電所を解体・撤去し、これに伴い発生する廃棄物を処理・処分し、更地にするまでの一連の作業・措置のこと。</p>
2号機(加圧水型)	<p>電気出力116.0万kW, 1987年2月17日の営業運転開始以降の総発電電力量192億9908.3万kWh</p> <p>●2011年8月29日～ 第18回定期検査中</p> <p>●新規規制基準への適合性確認審査対応中</p> <p>○福島第一原子力発電所事故を踏まえた安全対策を行っています。</p> <p>= 敦賀発電所2号機の新規制基準への適合性確認審査の状況について =</p> <p>原子力規制委員会による審査は、現在、敷地内破砕帯評価と地震動評価(地震の揺れ)の二つの論点について進められています。</p> <p>2020年2月の敷地内破砕帯評価に関する審査会合において、敷地北側にある断層(K断層)と2号機原子炉建屋の直下にある破砕帯との関連性について当社から説明したところ、審査資料に当初記載していたボーリングコアの肉眼による観察結果を削除し、詳細データとなる顕微鏡によるコアの薄片観察結果のみの記載に変更したことについて、不適切であるとのこと指摘を受けました。</p> <p>ご指摘を受けた件については、審査とは別に品質保証に係る検査として確認していただくことで、審査を継続していただいておりますが、2021年8月18日に開催された原子力規制委員会において、「調査データに基づく当社の評価結果の信頼性が確保されるために必要な業務プロセスの構築が確認されるまでの間は、審査会合を実施しない」という方針が示されました。</p> <p>当社は、原子力規制委員会の決定を重く受け止めるとともに、審査の進展を期待していただいている地域の皆さまに多大なるご心配をおかけしていることを、心より深くお詫び申し上げます。</p> <p>業務プロセス構築の取り組み状況について10月26日の公開会合でご説明しましたが、11月2日の原子力規制委員会において、今後の進め方として「当社が社内規程改正などの改善活動を終了し、審査資料の準備ができた段階で再度検査し、検査結果を規制委員会に報告すること」が示されました。</p> <p>当社は準備が整ったことから、2022年5月24日および25日に、改正した規程に基づく業務プロセスの実施状況などについて検査を受けご確認いただきました。</p> <p>現在、5月の検査においてご指摘いただいた事項について規程への反映等を行い、審査資料を作成しています。</p> <p>敦賀発電所2号機は、当社の経営の柱であることから、引き続き検査でのご指摘に真摯に対応し、品質管理の継続的な改善を図ってまいります。</p>

2. 敦賀発電所3, 4号機準備工事の状況 (2022年9月2日現在)

現在、原子炉建屋背後斜面の緑化管理等の建設予定地維持管理およびコンクリート製造・供給プラントの設備維持管理等を継続して行っています。



建設予定地の状況 (2022年8月24日撮影)

3. トピックス

(1) 敦賀発電所 1号機 廃止措置工事に係る情報交換会の開催

8月2日、(公財)若狭湾エネルギー研究センター主催の敦賀発電所1号機の廃止措置工事に係る元請会社と県内企業との情報交換会が開催されました。

情報交換会では、当社より敦賀発電所1号機の廃止措置工事計画について説明後、本年10月からの「取水口エリア解体工事」と12月からの「薬液注入ポンプ他解体工事」について、元請会社の原電エンジニアリング(株)と関電プラント(株)より、工事概要やスケジュール、工事に必要な技術要件についての全体説明が行われ、その後、個別相談で意見交換が行われました。情報交換会には、全体説明会に14社、個別面談会に6社の方にご参加いただきました。当社は、今後も廃止措置工事に係る情報を地域の方々に広く発信していくとともに、県内企業の皆さまと安全第一での廃止措置工事を進めてまいります。



全体説明会の様子



個別相談会の様子

(2) 敦賀市原子力発電所懇談会にて敦賀発電所の近況を説明

8月10日、第129回敦賀市原子力発電所懇談会が開催されました。

当社から敦賀発電所2号機新規規制基準への適合性確認審査の状況、敦賀発電所1号機の廃止措置工事の状況等を報告し、質疑が行われました。懇談会の締めくくりとして座長の渕上敦賀市長からは、「敦賀発電所2号機は、規制委員会の指摘を踏まえ、しっかりとした体制の下、確実な資料作成を行ってほしい」、「敦賀発電所1号機廃止措置については、今後も安全最優先で進めてほしい。地元企業参入促進の取組みを積極的に展開してほしい」、「クリアランスは理解が少し進んできていると感じる」などのご意見をいただきました。



説明をする立地・地域共生部長

(3) 敦賀発電所 オンサイト医療訓練の実施

8月24日、敦賀発電所において、管理区域内で複数の作業員に負傷事故が発生したことを想定したオンサイト医療訓練を実施しました。

訓練では、傷病者の緊急度や重症度に応じて適切な処置や搬送をおこなうために治療優先順位を決定するトリアージ、放射能汚染検査、除染、応急処置および管理区域外の搬送が適切に対応できることを確認しました。

今後とも、いざという時に適確な行動がとれるよう継続的に訓練を実施してまいります。



トリアージ等の応急処置の様子

4. コミュニケーション活動

(1) 越前市外国人市民防災リーダー養成研修会への協力

7月21日、越前市主催の「越前市外国人市民防災リーダー養成研修会」が開催されました。本研修会は、越前市の外国人住民数の増加を背景に、自然災害発生等を想定し、外国人の中でコミュニティや地域での自助共助の担い手を育成することを目的に開催されているものです。

越前市は、敦賀半島の発電所から概ね30km圏内のUPZ(緊急時防護措置を準備する区域)に位置していることから、研修会においては自然災害に係る講義に加え、原子力発電に関する講義を原子力事業者より説明をしています。

今年度は、当社が講師となり、ブラジルやベトナム、中国等の方々を含む計13名の受講者の方々に原子力発電の仕組みや原子力災害の概要、原子力災害が起きた際の取るべき行動について学んでいただくとともに、放射線測定体験を通じた日常生活における放射線について理解を深めていただきました。

当社は、引き続き関係自治体との関係を維持し、原子力に対する理解活動につなげていけるよう取り組んでまいります。



講義の様子



放射線測定体験の様子

(2) 「きいばす夏休みエネルギーフェア2022」、「あっとほうむサイエンスパーク」に出展

7月31日、「きいばす夏休みエネルギーフェア2022」、また、8月18日、「あっとほうむサイエンスパーク」が開催され、当社ブースを出展しました。

「きいばす」のブースでは、『わっか飛行機作り』、『ドローンシュミレータ』、『クリアランスベンチに座ってみよう』を体験いただきました。

また、「あっとほうむ」のブースでも、クリアランスベンチの紹介や加工前のクリアランス物を展示するとともに、身の回りにある肥料、塩などの放射線を測定してもらい、クリアランスや放射線のことを知って頂く良い機会となりました。また、お子様向け『工作教室』を開き、アルソミトラのような空飛ぶ『種の模型』を折り紙などで作り、飛び方を観察してもらいました。

当社は、これからも地域の行事に積極的に参加し、皆さまとのコミュニケーションを深める活動に取り組んでまいります。



「きいばす」でのブースの様子



「あっとほうむ」でのブースの様子

5. 敦賀総合研修センター 公開研修コースのお知らせ



こちらから敦賀総合研修センターのホームページをご覧ください

敦賀総合研修センターでは、新型コロナウイルスの感染予防対策を講じた上で、29コースの開催を予定しており、以下はお申込み期間近となっている主なコースの内容です。公開研修コースの詳細、応募方法は、当社ホームページをご覧ください。

なお、今後、政府から発令される「緊急事態宣言地域」・「まん延防止等重点措置地域」及び福井県独自の警報等の発令により、他県との往来が原則禁止となった場合は、福井県外からの受講申込みをお断りさせていただく場合がありますので、ご了承ください。 <http://www.japc.co.jp/tsuruga-training/index.html>

研修名	研修概要	研修期間	申込期限
根本原因分析手法コース	事故やトラブルの原因分析に使われるSAFER(Systematic Approach For Error Reduction)を理解し、問題の根本的な原因を明らかにする手法を学びます。本コースで学ぶ手法は原子力の現場だけでなく、一般産業のあらゆる場面でも活用できます。	11月16日(午後) 11月~17日(1.5日間)	10月7日
リスクコミュニケーションコース	リスクコミュニケーションとは、リスクについて関係者間で情報や意見を交換し、その問題についての理解を深めたり、お互いにより良い決定ができるように合意を目指したりするコミュニケーションを言います。この研修では、講義やロールプレイング(役割演技)、参加者間の意見交換を通じて、リスクコミュニケーションのあり方、方法などを学びます。 原子力広報については、主に当社が実践している事例を用いて説明します。リスクコミュニケーションや広報は原子力に限った話ではありませんので、その手法を学ぶことはとても有効です。広く一般の方にもお勧めします。	11月17日~ 11月18日(午前)(1.5日間)	10月7日

公開研修に関するお申込み・お問合せ先

敦賀総合研修センター(敦賀市沓見165号9番地6)
電話:0770-21-9700 FAX:0770-21-9726(応募申込み専用)
メールアドレス:tsuruga-tr-center@japc.co.jp

